

報告

教育目標	1. 国際社会ですこやかにたくましく生き抜く基礎・基本を培う。 2. 個性や特性を大きく伸ばし豊かな想像力を養う。 3. 社会に貢献できる能力・態度を育てる。			
目指す学校像	1. 英語教育や国際理解教育に力を入れ、国際社会を生き抜く力を身に付けさせる学校 2. 学ぶ者としての基本的な態度や姿勢をきちんと指導し、個性や特性を大きく伸ばせる学校 3. 生徒が思いやりの心と規範意識を持ち、明るく生き生きと活動している学校 4. キャリア教育を充実させ、大学進学や生徒の希望する進路を実現させる学校 5. 奉仕体験活動を通して社会に貢献する意欲や態度を育てる学校			
中期目標と方策				
単位制高校の特質を活かし、基礎的・基本的な学力の定着や、さまざまな進路実現に向けた学力向上を図り、学習活動・特別活動に主体的・意欲的に取り組む生徒の育成に努める。				
中期目標と方策	今年度の取組目標と方策	今年度の重点目標と方策	結果 * ()内は昨年度の数値。	
全体	1 【学習指導】 日常の授業の工夫、改善を図り、生徒の主体的な学習意欲の向上を図る。家庭学習時間の増加により、学習習慣、基礎・基本の定着や各自の進路に向けた学力の向上を図る。	①日々の授業に向けて、主体的な姿勢を育み、学習習慣の定着を促す。 ②教科会での情報共有、組織的な取組による授業力の向上 ③東京都主催や外部団体主催の教員向け研修に積極的に取組み、授業力の向上を図る。	○予習・復習を具体的に示し、自主的な学習習慣を定着 ○日常から読書指導を行い、読書活動を推進 ○土曜・放課後補習の充実 ○基礎・基本の定着へ「ステップアップ学習」を年3回実施 ○ICT、アクティブラーニングによる授業改善による、生徒の主体的学習の推進 ○生徒による授業評価アンケートによる授業改善	○家庭学習時間(学年+1h)生徒50%以上・44%(37.6%) ○読書する生徒50%以上・40.5%(37.6%) ○授業満足度70%以上・64.7%(58.5%) ○準備をして授業に臨む生徒90%以上・80.7%(75.2%) ○COVID19によるステイホーム期間もあり、自宅学習の目標時間達成生徒は増加した。しかしながら、学習時間の少ない生徒と多い生徒の乖離が大きく、少ない生徒の学力向上に課題がある。次年度は、クラッシーの導入により、模擬試験を核とした学力向上に取り組む。 ○授業満足度は目標値に若干届かなかった。普通科で大学進学率6割の学校としては、目標値自体が低かったにもかかわらず、授業満足度が7割に届かない点については課題がある。生徒の主体的な活動をより導入したり、ICTの効果的な活用、クラッシーの動画、小テストの活用など、更なる改善を図り、授業満足度を高めることが、入試倍率の向上にもつながると考える。 ○依然として読書率は5割を下回っている。授業やHRでの読書指導、課題の設定等、より積極的な読書指導が求められる。
	2 【国際理解教育】 「東京グローバル10」「海外学校間交流推進校」として、英語教育・国際理解教育を充実させる。	①国際交流行事の充実 ②英検等外部検定全員受験 ③授業、行事、LHRを通して、コミュニケーションやプレゼンテーション能力の向上を図る。 ④SDGs教育の推進	○英語検定、GTEC等外部検定の指導 ○海外交流の推進、ネット、手紙等の間接的な交流の工夫 ○スット・ドラマコンテストの実施 ○「ともだちプロジェクト」等、オリ・パラ教育の推進	○英検準2級以上合格者数60名以上・52名(54名) ○SDGs講演会(12月) ○パリ・ポールヴァレリー校クリスマスカードを郵送。 ○韓国ソウル・徳山高校とネット会議、次年度の交流を計画。 ○東京韓国教育院による民族衣装着付け教室 ○東京韓国教育院によるオンラインハングル講座 ○放課後ハングルクラブでのハングル講座(1月から3月) ○「留学生が先生」(1月)は緊急事態宣言により中止。 ○英検は、準2級以上52名。1級2名、準1級3名合格。 ○1年ドラマコンテストは12月に実施。

<p>3【キャリア教育】3年間を見通した系統的なキャリア教育により職業的自立意識の醸成を行い、将来設計に基づいた進路指導を進める。社会変化に対応できる人材の育成を図る。</p>	<p>①1・2年次からのキャリア教育の実践 ②大学入試改革に伴う指導体制の見直し。 ③推薦入試に向けた1・2年次からの指導 ④職業的自立意識の醸成</p>	<p>○大学・研究機関等外部団体主催の校外活動への参加を推奨する。 ○各種検定や資格に積極的に挑戦するよう指導する。</p>	<p>○英検、漢検以外の検定等合格者数 50 名・29 名（情報）(25 名) ○校外活動参加者 100 名 ○インターンシップ参加者 50 名(19 名) ○1・2 年次の上級学校見学 ○上級学校を招いての進路ガイダンスを3月に実施。生徒の上級学校見学は、対面での実施を大学等は行っておらず、オンラインでの説明会が多かった。</p>
<p>4【生活指導】規範意識を高め、自分で判断し決定実行する自己指導能力の育成を図る。言葉遣いや行動に、相手を気づかい、いたわる心が持てる人間を育成する。防災教育を行い、防災の意識を育てる。</p>	<p>①学校生活のあらゆる場面で生徒の自己指導能力を高める指導を行う。 ②体罰根絶、いじめの未然防止・自殺防止に取り組み、人権尊重の教育を推進する。 ③校内美化の徹底 ④防災訓練の実施</p>	<p>○時間を守る、礼儀身だしなみ等の指導を全校体制で行う。 ○事故や問題行動の未然防止のため予防的指導を行う。 ○全校体制で清掃活動を行い、校内の美化に努める。 ○学校安全計画を策定し、防災教育、薬物乱用防止教室等、生徒の安全に関する指導を徹底する。</p>	<p>○授業開始終了時の挨拶、服装指導の徹底 ○提出物、遺失物の減少 ○いじめ、体罰ゼロ ○SNS の使い方等で生徒間のトラブルが発生した。例年、年度当初に SNS の使い方や高校での生活について、オリエンテーションを行ってきたが、今年度は COVID19 のため、生徒の人間関係も含め、高校生としての生活態度の育成に課題が見られた。次年度は、年度当初のオリエンテーションのなかで生活指導の徹底を図る。 ○特別指導ゼロ ○特別指導についても、ゼロを達成できなかった。年度がステイホーム期間中から始まったこともあり、生活の乱れ、精神的な不安等、例年のない生徒対応を求められる場面もあった。次年度以降も、今年度の状況をうけて、早期発見、早期対応を心がけていく。</p>
<p>5【広報活動】本校の教育に理解と共感を抱く保護者、生徒の拡大を図り、進路や国際理解教育に意欲的に取り組む生徒の獲得を目指す。</p>	<p>①全校体制での広報活動 ②総務国際部を中心に、効果的・効率的な広報活動を展開</p>	<p>○全校体制で、中学校塾訪問を展開 ○HP の各部活動の更新 ○全校体制での学校説明会、授業公開、部活動体験の実施</p>	<p>○入選中進対倍率 1.4 倍・0.88 倍（0.88 倍） ○中学校塾訪問回数 400 回・183 回（262 回） ○COVID19 のため、中学校塾訪問が難しかった。学校での説明もネット申込、人数制限で行い、ネットでの説明会や動画配信等を行った。 ○HP の部活動ページは全部活動記事を掲載した。 ○昨年に引き続き中学校塾教員対象説明会を実施。 ○次年度も、可能になれば塾中学校訪問を充実させる。</p>
<p>6【学校経営】教育公務員としての高い使命感・倫理観をもち、服務規律を遵守し、協働意識を持ち、ライフ・ワーク・バランスを図る。</p>	<p>①服務規律の徹底 ②個人情報の管理 ③情報の共有化と会議の効率化 ④会議の時間短縮</p>	<p>○企画調整会議、職員会議の効率化 ○分掌や学年の連携により、業務の効率化を図る</p>	<p>○服務事故ゼロ。 ○時間外在校時間 80 時間以上の教員 3 名。 ○会議議事録の情報共有は一部に課題が見られた。 ○服務事故防止研修を 3 回実施。 ○調査書の発行等、個人情報の取り扱いについて、複数確認、管理職による確認を行った。 ○COVID19 のため、連絡事項が増え、会議時間の短縮はできていない。</p>

教科	7 教育改革、入試制度改革の動向を見据えた、指導体制・指導方法・指導内容を研究し、教科としての一層の指導の充実を図る。生徒が主体的な学びを行う場面に授業に取り入れる。	①変革期を迎える大学入試の情報収集と分析、指導方法の探求 ②新学習指導要領を踏まえた指導内容、方法の改善	○大学入試問題の分析 ○分析結果に基づくシラバスの改定 ○補習、補講の充実 ○教科会での情報の共有化	○「教え方の工夫」生徒の肯定的評価75%以上・67.1% (66.6%) ○補習・補講 50 講座 2000 人以上・26 講座 470 名 (57 講座 1631 名) ○「教え方の工夫」については、改善が求められる。生徒主体の学習活動の積極的な導入。思考力・表現力を求める課題の設定をさらに進める必要がある。 ○補習・補講については、長期休業(夏期・冬期)の短縮により設定できる期間が限られたことによる。
部活動	8 部活動の一層の活性化を図り、集団や社会の一員としての自覚と行動力、協調する態度を育てる。	①部活動の参加を推進し、活動内容の充実を図る。 ②大会参加、発表に主体的に参加させ成就感や自己肯定感を得られるよう指導する。	○部活動への参加の促進 ○外部大会、文化祭等への参加、発表等を充実させる	○部活動加入率 90%以上・84.2% (83%) ○都大会以上の大会参加部 25 部・18 部 (21 部) ○ステイホームのため、部活動紹介ができず、また活動も短期間しかできなかった。 ○多くの部活動で大会中止が相次ぎ、3 年の引退試合もできなかった部も多かった。
学年	9 3 年間を見通した継続的・計画的な指導を通して、主体的に行動する生徒の育成を図り、志の高い進路希望の実現を図る。	①面談やHR活動を通して生徒理解に努め、学習・行事等への積極的姿勢を育てる。 ②CGと連携し、進路情報の提供により進路意欲を高める。 ③生徒部と連携し、礼儀・身だしなみ等の指導を行い、規律ある学級運営を行う。	○家庭学習習慣の定着と充実 ○規範意識の向上 ○模試データの活用による進路指導 ○面談、カウンセラーとの連携により、生徒理解を深めきめ細かい指導を行う。	○1 日あたりのクラス平均遅刻人数 1 未満・1.31 (1.54) ○学校生活が充実している生徒 90%以上・85.8% (82.2%) ○カウンセラーへの相談や悩みを抱える生徒は多かった。 COVID19 からの不安や、通常の登校、授業、部活動ができないことからの不安、課題もあったが、担任団中心に他の分掌とも連携対応した。 ○学校行事も軒並み中止になり、特に体育祭、文化祭、修学旅行の中止は大きかった。
総務国際交流部	10 保護者、地域、都民の信頼を得る学校づくりの推進へ、保護者、地域と連携を深め、情報発信を充実させる。本校の教育活動を理解し志望する受検応募者を増やす。国際理解教育を充実させ、グローバルな視野を持ち、将来の国際的な社会で活躍する人材を育成する。	①地域、中学生に向けての情報発信を強化し、本校の教育活動を理解し志望する受検者を増やす。 ②国際社会で生き抜く生徒の育成に向け、国際理解教育を充実させる。	○HP、パンフレットの改善による情報発信の強化 ○全校体制で行う広報活動の支援 ○学校運営連絡協議会、PTAの協力 ○姉妹校、受け入れ等海外交流の充実	○HP 更新回数 150 回・338 回 (226 回) ○学校説明会来場者数 4000 名以上・1066 名 (4579 名) ○在日大使館、海外留学生による講演 3 回・0 回 (3 回) ○訪日高校生との交流 2 回・0 回 (2 回) ○COVID19 のため、海外との交流はほとんどできなかった。次年度は、ネットや手紙等間接的な交流を実現させる。また、COVID19 が収まる場合は、直接交流についても検討する。 ○HP については、全部活動のページを完成。前年度よりさらに充実することができた。また、新 HP システムへの移行を行った。HP による情報発信はさらに重要性を増しており、新 HP の充実を図らなくてはならない。 ○パンフレットは抜本的に改善した。単位制高校としての特色を中心に、進路や国際理解教育のページを充実させた。 ○中進対の倍率は、前年と同様 1 倍に達しなかった。今後とも、積極的な広報活動が必要である。 ○学校運営連絡協議会は 2 回が紙面開催となった。対面での貴重な意見をいただける機会を次年度は確保したい。

教務部	11 単位制の特色を活かした教育活動の環境整備を行い、教育課程に基づき組織的・計画的に質の向上を図るカリキュラムマネジメントを推進する。	①新指導要領に基づいた新しい教育課程の編成 ②成績処理システムを活用した成績の適切な処理 ③入選業務の適切な遂行 ④在京外国人の学習環境の整備	○新教育課程の編成 ○成績処理システムの管理・運用 ○入選業務の適切な遂行 ○日本語教育等、在京外国人の学習環境の整備	○入学選抜業務事故ゼロ ○COVID19 対応のため、例年と異なる入試であった。細かな課題はあったものの、事故なく遂行できた。 ○新教育課程に向けて、委員会を定期的に開催し、単位制の特色を活かしたカリキュラムの構築を進めた。 ○在京外国人生徒の日本語学習環境について、外部と連携し、充実した活動を行うことができた。
生徒部	12 学校行事を充実させ、社会の一員としての自覚を持たせ、主体的に取り組む生徒を育てる。身だしなみ、礼儀指導を徹底し、規範意識を高める。生徒の健康の保持、増進及び体力の向上を図り、心身ともに健康な人間の育成を目指す。	①行事や部活動の活性化により活気あふれる学校生活を作る。 ②礼儀、身だしなみ指導を徹底し、規範意識を育てる。 ③心身ともに健康な学校生活を送れるよう支援体制を充実させる。	○行事、委員会等での生徒の主体的な活動の指導 ○校門指導、頭髪指導を通して、基本的な生活習慣の確立、社会人としての常識や規範意識を身に付けさせる。 ○カウンセラーと連携し、教育相談の体制を充実 ○安全衛生教育を行い、インフルエンザ等の予防、健康知識の普及により、健康安全に配慮した学習環境を整備する。	○部活動加入率 90%以上・84.2% (83%) ○都大会以上の大会参加部 25 部・18 部 (21 部) ○ステイホームのため、部活動紹介ができず、また活動も短期間しかできなかった。 ○特別支援教育に関する委員会 15 回・14 回 (15 回) ○多くの部活動で大会中止が相次ぎ、3 年の引退試合もできなかった部も多かった。 ○学校が健康管理に取り組んでいると思う生徒 80%以上・82.3% (66.3%) ○COVID19 のため、生徒への注意喚起を行う機会が増え、生徒の健康への意識は向上した。
キャリアガイダンス部	13 進路情報や進路資料を整理し、教員間での共通理解が図れるよう積極的な情報提供を行う。3 年間の継続的・計画的なキャリア教育を学年と連携し充実させる。	①全校集会、学年集会、プリント配布等により進路意識の啓発を図る。 ②各学年と連携を図り、系統的計画的なキャリア教育を行う。 ③入試制度改革への対応 ④スタディアプリの有効活用 ⑤模試を活用した進路指導 ⑥CG室の資料の充実	○スタディアプリの利用率の向上 ○模試を活用した生徒の学力把握と全教員の情報共有、学習指導への活用 ○収集した進路情報の分析と校内への周知 ○統合型選抜 (A0)、学校推薦型選抜の情報収集と教員への周知、指導方法の研究、指導体制の構築	○進路決定率 90%以上・84.5% (74.1%) ○大学進学率 70%以上・62.5% (59.0%) ○模試分析会 4 回 (目標) ○スタディアプリ月 10 時間以上利用生徒 60%・5 月視聴時間平均 4.4 時間 12 月視聴時間平均 0.3 時間 ○ステイホーム期間中、スタディアプリの利用率は上昇したが、その後低迷している。 ○COVID19、新共通テストへの不安から推薦の希望者が増加した。 ○早稲田 3 名、GMARCH20 名、日東駒専 20 名と難関大学合格者は増加した。 ○COVID19 により模試分析会は 4 回実施できず。 ○海外大学進学説明会、外国人生徒向け説明会を実施。韓国教育院に韓国の大学への進学相談をもらい、2 名が韓国の大学進学を進めている。 ○担任団主導で、卒業生の講演会、予備校講演会を実施。 ○次年度は、スタディアプリからクラッシーに学習支援ソフトを変更する。模試を核にした進学指導体制を確立し、学習動画の活用、小テストの利用による模試の事前、事後学習を充実させる。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">経営企画室</p>	<p>14 計画的な予算執行を心がけ、校内関係部署と連携し円滑な教育活動を支援する。</p>	<p>①管理職、関係教員と連携をとり、円滑な業務を実施し、業務の省力化を心掛ける。 ②複数対応、連絡、相談、報告を行い、サービス事故防止を目指す。 ③丁寧で温かい窓口対応</p>	<p>○施設の老朽化への対応 ○計画的で効率的な予算執行 ○関係部署との緊密な連携</p>	<p>○一般需用費のセンター執行割合 65% (54%) ○単位制高校で選択科目に特殊な科目が多いこともあり、これ以上センター執行割合を上げることは難しい。 ○予算調整会議による予算計画 ○計画的予算執行 ○会計事故ゼロ ○COVID19 対応のため、消毒のための用品や、簡易ベッド、等当初予定していなかった物品への対応も適切に行い、対応することができた。 ○部活動、行事、国際交流等が中止となり当初予定していない状況のなかで、予算委員会を開き計画を立て直し、対応した。特に、修学旅行については、海外から国内への変更、結局中止と二転三転するなかで対応に追われたが、事故や苦情もなく対応することができた。 ○体育館の照明工事、冷房工事は、COVID19 のため、次年度に延期となった。壁面の崩落、照明機器の故障、雨漏り等老朽化が進んでおり、改築改修工事を訴えていく。</p>
--	--	---	---	---